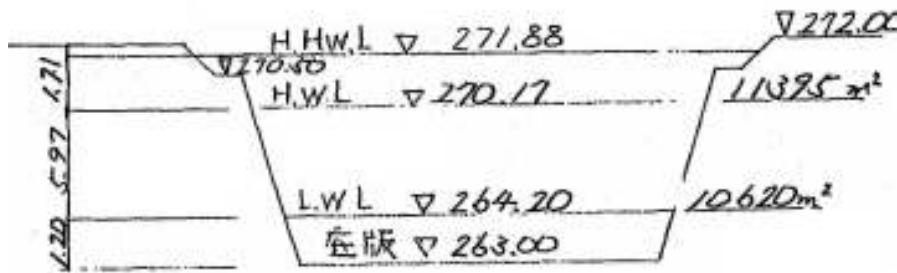


標高	高低差	面積	修正面積	平均面積	容量
263.00	0	10.517	10.490	—	—
264.20	1.20	10.776	10.750	10.620	12.744
270.17	5.97	120.65	120.40	113.95	68.028
270.50	0.33	12.140			
270.50	0	12.930			
272.00	1.50	14.360			

----- 推石容量 12744 m³ > 11860 m³ (標準推石量)
 調整容量 68028 m³ > 67993.965 m³ (標準容量)

A調整池設計容量



P.91より 設計容量 $68,028.00 \text{ m}^3$

P.92より 必要容量 $67,993.365 \text{ m}^3$

$68,028.00 \text{ m}^3 > 67,993.365 \text{ m}^3$ ----- OK



鹿児島県より平成22年12月27日入手しました調整池計算書を精査した結果、A調整池の重大な欠陥が判明しました。

この調整池は上位にある121ヘクタールの雨水の調整を行うように設計されております。設計貯水量は $68,028 \text{ m}^3$ 、面積= $11,395 \text{ m}^2$ 、高低差= 5.97 m 、この2値の積が $68,028 \text{ m}^3$ です。目視でA調整池面積の8割は近接道路面と同じ高さです。6m弱の深さにはほど遠く、現在のA調整池の調整容量は林地開発許可条件に規定された数値と著しい差があります。業者はこの状態でありながら「調整池は雨水の流出抑制と土砂の流出防止が機能している」との見解を述べております。

調整池容量は下表のとおり

一応B調整池は整備済みと見做せる、B調整池と他の調整池の現状を確認すると、いい加減さに愕然とした思いになります。行政はこれを見逃しています。

	設計容量(立方メートル)	B調整池を1としたときの比率	B調整池を設計値通りとしたときの推定容量
A調整池	68,028	12.9	3,674 (0.7)
B調整池	5,248	1	5,248 (1.0)
D調整池	13,778	2.62	2,100 (0.4)